



発行者
文京学院大学
女子中学校
南部 和彦

二〇二〇年に向けて

中高一貫部校長 南部 和彦

フレッシュな二年生を迎え文京での学びがスタートしました。中学一年生と高校一年生は新入生と分かるように胸に赤いバッジをつけ登校しています。正門前で登校時に挨拶をすると元氣よく「おはようございませう」と挨拶をしてくれます。はつらつとしたその姿を見るたびに文京生を育てている事の喜びと共に責任の重さを痛感しています。

本校は今年、文部科学省よりスーパーグローバルハイスクールアンソニイト校に指定を受けました。既にスーパーサイエンスハイスクールにも指定を受け四年目を迎えています。二つの指定を受けているのは都内の女子校では初めてです。また全国でも二十九校しかないそうです。指定校の名に恥じないように質の高い授業を一人ひとりの生徒に保障し、真の学び手を育てたいと思っています。

ご存じのように二〇二〇年から大学入試制度が大きく変わります。これまでのような知識の量を問うものではなく、どれだけ自ら考え、他者にその考えを伝えることができるかが求められています。いわゆる思考力・判断力・表現力です。この力は従来の講義型の授業ではなく生徒自らが授業に積極的に参加していくアクティブラーニングの授業から培われるものです。本校においても既に中高から協同的探究型学習を推進しています。

また生徒一人ひとりの主体性・多様性・協働性を伸ばす事も同時に求められています。文京では全教育活動を通して、基本理念である「自立と共生」、そして校訓である「誠実・勤勉・仁愛」を育んでいます。

その成果の一端を生徒が学校行事で見せてくれます。まずは六月に開催の体育祭です。毎年、各クラス、各学年が心を一つにして活気みなぎる体育祭を作り上げてくれます。今年はどうな成長ぶりを見せてくれるか今からとても楽しみにしています。

宿泊訓練の思い出

一年菊組 天野 芽唯

私は宿泊訓練で、たくさんの思い出が出来ました。一日目の昼食は、みんなでお弁当を食べました。その時、他のクラスの友達とも、レジャーシートを付け合せて大勢で食べました。初めて見た友達もいて、初めは緊張していましたが、だんだん慣れてきて、みんな笑顔で楽しくお弁当を食べられました。新しい友達が出来て良かったです。

二日目は「糸のつむぎ」体験をしました。初めてやったことなので、すぐに千切れてしまったりしたけど、自分オリジナルの腕輪が出来上がりました。

最終日の三日目は、ハイキングをしました。頂上にたどり着くまで、とてもたいへんでした。しかし、頂上で、今までに見たことのない大きな富士山が見られたので、本当に良かったです。

私はこの三日間で、色々なことを学びました。礼儀や協力し合うことの大切さです。「あいさつ」という、基本的なことですが、どんな時でもあいさつをしないと、自分も相手も良い気分になれません。また、宿泊訓練中に、他のクラスの友達とも話そうが出来ました。なので、同じクラスの友達だけで協力することはもちろん、他のクラスの友達とも協力し、助け合える仲間になれたら良いなと思っています。

この宿泊訓練で学んだことを生かし、これからの学校生活を送ってまいります。



写生会を終えて

二年栗組 佐藤 友里江

天候にも恵まれ、春を感じられる暖かさの中、写生会が行われました。新宿御苑に入ると、大きな木々は緑が生い茂って

ました。また、八重桜やツツジが満開でした。私たちはそれらに見とれてしまいました。

岸先生から全体説明を受けた後、自分のスケッチしたい場所を探しました。そして、場所を決め、花や木々の自然を一つ一つ丁寧に集中しながら描きました。集中して取り組んだせいか、お腹が空いてきました。「昼食は十二時から」という指示があったので、お弁当の時間を待っている時間はとても待ち遠しかったです。友達も同じように感じていたようで、「十二時まであと〇秒!」と時間を数えています。時間丁度に「いただきます!」と声をそろえてお弁当を友達と仲良く楽しく食べました。

昼食の時間も終わりラストスパート。景色と画用紙とに真剣に向かい合ったからか思っていた以上に時間が過ぎるのが早く感じました。すでに描き終えた人もいて、その人たちは、友達の描いている作品を見に行ったり、園内を散策したりと、楽しんでいました。集合時間に学年全員が集まった時には、それぞれが描いた絵を見せ合っていました。

写生会が終わって、クラスごとに集合写真を撮りました。その後、クラスごとに二列になつて駅まで帰ることになりました。その帰りの時に、とても感動したことがあります。駅までの道路のガードレール横の歩道はとても狭く、私たちが二列になつて歩いているといっぱいでした。すると、前方から歩行者がやってきました。私たちの列を見て、その人たちは車道に出て歩いてきました。私は車道を歩いているのは危ないと思ひ、クラスの皆に聞こえるように「右側に寄つて!」と声を掛けました。その瞬間、クラスの皆が右側にサッと寄り、歩行者の人たちが通れるようになり、車道を歩く人がいなくなりました。少し声を掛けただけですぐに団結し協力し合えるようになったのはスゴイ!と思いました。今回の写生会での経験を、普段の学校生活に活かしていきたいと思っています。



三年生になつて

二年松組 新聞 美結

三年生になつて私が思うことは、一・二年生の頃と比べて成長のチャンスが沢山あるということです。

今年、私は中学校の最高学年となり、「三年生としての自覚を持つ」ということはどういふことなのだろうと考えるようになりました。後輩達に尊敬される上級生になるにはどうしたらよいのだろうと考えるようになりました。私は「言葉よりも態度で示す」ことが大切なのではないかと思っています。

どのような行事においても今年には私たち二年生が一・二年生を引っぱつていかなければなりません。私はそのことを自分が成長できるチャンスだ、と考えることにしました。中学三年生は世間では、受験生と見なされます。高校受験のない私たちも、今年は何年以上に気を引き締めて勉強に取り組まなければなりません。その一方で、私は「三年生だからこそ出来る新しい事に挑戦してみたい!」と思っています。

今までやったことがなかった正委員に立候補し、体育祭実行委員やクリーンキャンペーンにも積極的に参加することにしました。行事に積極的にになると学業にも積極的に取り組めるようになり、今では朝の学活の一時間前に登校して自習をするのが日課になっています。

一・二年生の頃よりも忙しく、プレッシャーを感じる時もありますが、以前より責任感が強くなり、充実した楽しい学校生活を送れています。まだ新学期は始まったばかりなので、これからも自分の知らないことに挑戦し続けようと思います。そして、高校生に向けて外見的にも内面的にも成長する飛躍の年にしたいと決意しています。

